

## 下郷町青少年育成町民会議だより

### 青少年の主張発表～前号からのつづき

#### 家庭での読書

#### 「家読（うちどく）」のすすめ

「家読（うちどく）」は家族で読書の習慣を共有することです。読書を通して家族のコミュニケーションを図ろうという試みです。読書は個人的な体験ですが、感想を話し合ったり、人にすすめてたりして言葉にすることで、コミュニケーション能力や読解力、表現力を高めることにもつながります。「家読（うちどく）」は子どもも大人も心の豊かさを育む活動でもあります。

○家読は、親子が話す時間を確保します。

お子様と夢や生き方について話をしていますか。毎日の慌ただしい生活の中で、親子が向き合って話をする時間を確保するのは容易ではありません。しかしながら、時間は作らなければ生まれられません。家読では、一緒に本を読んだ後に話をする時間を確保できます。しかも、本を読んだ後には、話をする心と環境が整っています。夢について、生き方について、親から子へ、子から親へ、ぜひ話をしてみてください。

家庭での取り組み例

- 1 家族で話し合って「家読の日」を決める。
- 2 我が家の家読スタイルを話し合って決める。
- 3 家族で話し合って読む本を決める。
- 4 我が家の家読の記録を残す。
- 5 家庭文庫を作る。



○家読は、夢を見つけるお手伝いをします。  
「本を読むと心が旅をする。」とされています。普段の生活の中やテレビから流される情報から夢を見つげるのもいいですが、本を読むとその選択肢は限りなく広がります。お子様と一緒に本を読んで、一緒に夢を見つけてください。

絵本は、以下のような理由から家読に適していると言われています。特に忙しい毎日の中で家読をしていくためには、絵本は強い味方になってくれます。

- ◇絵があるので読み語りに適している。◇絵と文の両面から話ができる。
- ◇教育的で感動的な内容の作品が多い。◇15分程度で読み通すことができる。

○家読は、家庭の教育力を向上させます。

今や家庭は、電子メディアの浸透で、同じ屋根の下に住んでいても、別々の時間を過ごすことが多くなってきました。家庭の役割が薄れてきているのです。家読をおこなうことにより、以下のような家庭の教育力が向上するといわれています。このことは、お子様が夢に向かって二歩ずつ進んでいくことにもつながります。

- ◇家族のコミュニケーションの場を確保できます。
- ◇テレビの見過ぎ、ゲームのし過ぎに気を配るようになります。
- ◇親が読書する姿を子どもに見せることができます。
- ◇家庭内の言葉が磨かれます。

#### 【共催事業】

#### 冬休みわいわい子ども教室を開催しました！

12月25日（月）下郷町老人福祉センター大広間において、下郷町放課後子ども教室（下郷町教育委員会）主催「下郷町青少年育成町民会議・下郷町老人クラブ連合会共催事業」冬休みわいわい子ども教室が開催されました。第一部として下郷町囲碁愛好会の御協力による「はじめの囲碁教室」、第二部として下郷町将棋愛好会の御協力による「わいわい将棋教室」が実施され約10名の子どもたちが会員から駒の打ち方を学び、楽しく交流することができました。



## 「裏を美しく」


 旭田小学校 5年  
 櫻木 美優

「裏を美しく」と聞いて、みなさんはどんなことを思い浮かべますか。

「裏」というのは、友だちや先生、家族などの自分以外の人が見えていない、だれにも知られていない部分のことです。逆に「表」は、他の人が見えている、知っている部分や公共の場ということになります。「表」を美しくすることは簡単です。なぜかというのと、自分以外の人がしっかり見えているので、その時だけ人に優しくしたりマナーを守ったりと良い行いができるからです。では、「裏」を美しくするにはどうすればよいでしょうか。みなさんはどうですか。人が見ていないところでもしっかりできますか。

私はたまにできないときがあります。それは、例えば先生がいなくてきです。周りに流されてしまい、人が注意している声を聞き流してしまうときがあります。だれかが注意している

声も、みんながさわいでいるから別にいいやと聞き流してしまうのです。また、家にだれもいないときにだれかのアイスを勝手に食べて、食べたのは自分じゃないとうそをついたこともあります。だれにでも「裏」が美しくないときがあると思います。それはきつと、裏の自分ができてきて自分に甘くなつて、自分をコントロールできないせいだと思います。

たとえば表が美しくても裏がきたない人間であれば、みんなに認められることとはないと思います。みんなから認められれば、信頼される人になれると思うので、私はそういう人になりたいです。

裏が美しくない人がやりそうなことは、他にどんなことが思い浮かびますか。床に落ちていたゴミに気づいていないのに拾わなかったり、人をからかったりしていることも「裏」が美しくないと言えます。それなのに先生がきたとたんゴミを拾うようになったり、人からかかうのをやめたりする人がいます。

私はあまりそういう人を好きになれません。なぜかという点、その人は人前では優しかったりマナーを守ったりするのに、裏ではきつと人がいやがることを平気でしている人だと思っからです。

私はそういう裏が美しくない人を注意できるようになつてほしい人間になりたいです。なぜかという点、私の周りに裏が美しいかっこいい人がいるからです。

ある日の昼休み、低学年の子がだれも見えないのろう下に落ちていたゴミを拾っていました。低学年の子ができて自分ができないのははずかしいと思つたし、その子はかっこいいと思つた。またある日には、朝先生が来る前の時間にさわいでいる友だちを、「静かにして」と言つて注意してくれる友だちが二人いました。その友だちは周りに流されないで人を注意できる勇気があつて、裏が美しくてかっこいいと思つた。

この人たちのように、私も社会に出

たときにマナーを守ったり、人に優しくしてあげたりしたら、相手が喜んでくれると思うので裏が美しいかっこいい人になりたいです。

裏が美しいというのは、人生において一番大切なことなのかもしれないと私は思いました。それは裏が美しくないと表の自分もダメになつていく気がするからです。本当に大切なのは表よりも裏の自分が美しいことだと思つています。

この話を聞いてくれている人みんなに成長してもらえたらいいなと思つています。自分がかっこいいだけで満足しないで、他の人もみんなかっこよくなれば、下郷町はどんなにいい町になると思つています。

みなさん、いっしょに「表」だけでなく、「裏」も美しくいきましょう。

## 私たちの宝 大内宿

 江川小学校 5年  
 佐藤 日和

私の家は、大内宿でそば屋をしています。お店がいそがしい時は、私もお手伝いをします。大内宿は、いろいろな場所から観光客が来る、日本でも有名な場所です。そんな大内宿のことが私は大好きです。

だけど、いやなところの一つだけあります。それは、ゴールデンウィークなど、長い休みの時に遊びに行けないことです。いろいろなところに出かけている友だちが、とてもうらやましいです。

「なんで私ばかり遊びに行けないの？なんでがまんしくなくちゃいけないの？私だって家族みんなで遠くに旅行

行きたい。」

ゴールデンウィークが来るたびに、「こんなところに生まれなければよかった。」と思つてしまいます。たくさん観光客が来て、有名なところはうれしいです。だけど、休みの日に遊びに行けないのは絶対いや。

今年のゴールデンウィーク。私はこんなことを考えながら、お店のお手伝いをしていました。

「いらっしやいませ。」

「ありがとうございます。」

と、私はいつものようにあいさつをしていました。すると、一人のお客さんが、

「お手伝いをしているの。えらいね。おそば、とってもおいしかったよ。また来るね。」

と言つてくれました。

「ありがとうございます。またのご来店をお待ちしております。」

私は、とつてもうれしくて、感謝の気持ちを含めて、大きな声で言いました。そして、いやだと思ひながらお手伝いをしていたことが、はずかしく思えてきました。

どうして大内宿にはこんなにお客さんが来るのだろう。私は不思議に思いました。そして、大内宿のことをもっと知りたいと思い、お母さんに聞いて

みました。

「大内宿は、どうして国の文化財として残されているの。」

「江戸時代に会津のおとの様が、整備したものが今の時代に残っているから、国の文化財になっているんだよ。」

「二年間でどれくらい観光客が来るの。」

「八十万人以上いるよ。」

今まで、知っているようで知らなかったことを、たくさん知ることができました。そして、「やっぱり大内宿ってすごい所だ。」と思ひました。

次に、お母さんがどうして大内宿にきたのか聞いてみました。すると、



## 知ってほしい 下郷町の良さ

檜原小学校 5年  
湯田 護

みなさんは、下郷町の良さはどんな所だと思えますか。  
下郷町は、大内宿や塔のへつりなどの観光名所があります。また、しんごろうというユニークな郷土料理やおいしいそばを食べることができます。そして何より、広い自然に囲まれているので、春夏秋冬、それぞれに自然の美しさを感じることができます。  
こういった下郷町の良さを求めて数多くの観光客がやってきます。最近では、特急リバイ会津も運行し、東京からもたくさんの方々が観光客が気軽に訪れることができるようになりまし。また外国からのたくさんの方々が観光客も見かけるようになりました。下郷町には、観光客が訪れなくなるすばらしい魅力があります。

しかし、ぼくは、この他に下郷町を訪れる観光客や地元に住んでいるみなさんに知ってほしい町の良さがあると思います。それは「町の人々のやさしさ」です。このことを考えるきっかけになった出来事が二つあります。一つ目は、六月四日に行われた「百年ウオーク」です。「白岩おもてなしコース」をスタートしてから四キロほど歩き、給水ポイントに到着した時、その地区の人々が、「いらっしゃいませ。」とお茶や甘酒、軽食を用意してぼくたちを待っていてくれたのです。そして、何よりも温かい笑顔でもてなしてくれたのです。疲れていたぼくは、この方々のやさしい心づかいがとてもうれしかったのです。ぼくは今までこれほど丁寧な心のもてなすおもてなしを受けたことがなかったので、その後あの笑顔が頭からはなれませんでした。

二つ目は、校外学習の「木地師体験」で木のお皿づくりをした時のことです。ぼくはお皿の底の部分をけずりすぎて穴をあけてしまいました。落ちこんでいると、木地師の先生が、「だいじょうぶだよ、もう一つ新しいのをつくらうね。」と言って、はげましてくれました。そのやさしい笑顔がとてもうれしかったのです。この二つの出来事が、ぼくが下郷町の良さとして「町の人々のやさしさ」があると思った理由です。

他にも、ぼくは今までの記おくをたどり、地域の方と接した時のことを思い出してみました。ぼくはよく地域の行事に参加し、地域の方とふれあいます。また家の近くを散歩している時などにも地域の方とよく会います。その時のことを思い出してみると、そこには必ず笑顔で接してくれる人たちの姿がありました。今まで、何気なく当たり前のようについていたことが、それがとてもすばらしいことだということに気がつきました。地域の方が、いつもだれに対してもやさしいことが、この町の大きな魅力だと思おうし、一番の良さだと考えるようになりました。  
今、ぼくは下郷町の一人として自分に何かできることはないかと考えています。ぼくが出した結論は、あいさつを元気にすることです。  
みなさんは、あいさつをされた時に気持ちがあいさつとしてよい気持ちになったことはありませんか。ぼくは、あいさつをされるとよい気持ちになります。またよい気持ちになると笑顔になります。このようにあいさつにはみんなを笑顔にしたり、みんなの気持ちをあたたかくしたりする力があると思います。



「だって、都会は、人や車、建物などがたくさんあってゴミゴミしているけど、大内宿は緑がいっぱいで、空を見上げると広々としているからね。道路だって広々していて、車の心配をすることがないから、のびのびできるし。それに、子ども達が安全に過ごさせて、すれちがう人がみんな知っている人だから、安心できるのよね。」  
「今の生活は楽しいけど、これからのことはちょっと心配なのよね。後つぎの事とか、この風景を残していくのはとても大変なのよ。」

私にとって当たり前の景色だけれど、都会の人にとっては、めずらしいのだと思います。  
そして、この景色がなくなったら、大内宿はどうなってしまうんだろうと思います。  
大内宿は、下郷町の、そして日本の宝物なのかもしれない。私は、この景色を残すためにがんばってきた方々に感謝したいと思います。長い休みの時に遠くに遊びに行くことはできないかもしれないけれど、これからも、家の手伝いをしっかりやっていきたいと思えました。大内に生まれた一人と

して、宝物であるこの風景を、これからも残していけるように、大内のことをたくさん勉強して、知っていききたいです。

ます。ぼくが出した結論は、あいさつを元気にすることです。  
みなさんは、あいさつをされた時に気持ちがあいさつとしてよい気持ちになったことはありませんか。ぼくは、あいさつをされるとよい気持ちになります。またよい気持ちになると笑顔になります。このようにあいさつにはみんなを笑顔にしたり、みんなの気持ちをあたたかくしたりする力があると思います。

## 広島から学んだ平和

江川小学校 6年  
五十嵐 梓

「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませんから」  
これは、広島市の平和記念公園内にある原爆死没者慰霊碑に刻まれている言葉です。  
私は、春休みに母と二人で広島に行ってきました。この旅行は、ずっと前から決まっていたものです。私の両親は、子どもが小学六年生くらいになったら、広島に連れていこうと決めていたそうです。今、二十歳になった私の姉も、八年前に広島を訪れています。戦争がどういふものだったのか。日本という国が体験してきたこと。平和とはどういうことか。大人になる途中の大切な時期に、命の尊さを見て聞いて感じて

ほしい。両親は私にそう言いました。そして母は、八年前にタクシーの運転手さんに教えてもらったことを話してくれました。今、平和記念資料館に展示されているものは、かなり見やすいものになっていること。以前はもっと悲しげなものをたくさん展示してあったが、見学者がショックのあまり倒れてしまうほどだったので入れ替えたこと。本当は、その展示しなくなったもの、資料館の奥の部屋に保管されているものこそ、核を持っていく国の偉い人や核兵器を推進する人々に見てほしいと言っていたこと。そして、姉にこう言っていたそうです。  
「展示品は怖かったかい。その怖かった

という気持ちを忘れないでね。戦争って遠い昔のことじゃないんだよ。たった七十年くらい前に実際にあったことなんだ。そして、広島市だけでなく、呉市にも行ってみてね。原爆被害者だけではない、攻撃する側の姿もあるんだから。」  
『攻撃する側の姿』それがどういうことなのか、自分の目で確かめたいと思いました。戦争に負けた国、原爆を落とされた国、ということしか知らない私は、色々なことを調べなければならぬと思います。そこで、広島に行く準備を五年生から始めました。オバマ大統領の演説「核なき世界」を書き写す。広島に関する記事を読む。戦争に

ついでに報道をみる。広島のカイドブックを読む。図書室の資料を探して読む。これらのことに少しずつ取り組んで広島行きに備えました。  
広島に行く日が来ました。まず最初に呉市に行きました。呉市は、大きな軍隊があった所でした。海軍の拠点として、たくさんの兵器、戦艦がつくられた町だったそうです。今も海上自衛隊の基地があります。  
大和ミュージアムには、十分の一の大きさの戦艦大和があります。また、ゼロ戦や人間魚雷の回天は、実物が展示してありました。戦艦の資料、設計図、様々な大きさの砲弾、武器もたくさん展示されています。戦艦の乗組員たち



## ありがとうの 気持ちを

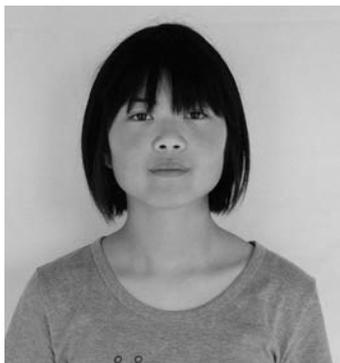
旭田小学校 6年  
佐藤 椋

五月二十二日の新聞に次のような投書が寄せられていました。世の中のお母さんたちは、いつも子育てに必死です。つい強い口調で、子どもを叱ってしまったりすることがあります。それは、「自分の子どもだ。」と責任があるからこそ、気持ちが熱くなってしまっているのです。だから、一部分だけを見るのではなくどうか温かく見守ってほしいと書いてありました。  
ぼくは、自分の母の姿を重ね合わせていました。ぼくも、弟とけんかしたり、ふざけて失敗をしたりして、よくおこられます。  
しかし、先日こんなことがありました。ぼくはソフトの時の飲み物を忘れてしまいました。「今日のソフトは、飲み物なしか。」と思いながらグラウンドに向かいました。その時くつ箱を見ると、水筒が入っていたのです。母は、自分の仕事があるのに、お昼休み中に水筒を持って来てくれていました。ぼくが忘れたのに持ってきてもらって悪かったな、ごめんさい。という気持ち

ちが込みあげてきました。と同時に、「ありがとう」という思いもわき上がりました。  
考えてみると、母は、仕事で遅くなる特、時間を見て仕事の合間に夕ご飯の準備をしてくれています。  
正直、新聞の投書を読むまでは、してもらっていることに対してそれほど特別な思いはありませんでした。あつたとしても、「ああよかった。これで飲み物が飲める。」という程度でした。しかし、そうではありませんでした。ぼくが見えないところでも、母ががんばっているからこそ、学校でも家でも困ることなく過ごさることができるのだと気づきました。  
それでは、ぼくたちが助けてもらっているのは、父や母、家族だけでしょうか。  
ぼくたち六年生は、六月のはじめに修学旅行に行きました。そして、総合的な学習の時間に、二日間ぼくたちに関わっていただいた人をみんな考えてみました。旅行会社の方、町バス

や新幹線の運転手さん、駅員さん、昼食を食べた場所の料理人さん、料理を運ぶ人、農家の人、道を教えていただいた交番の警察官・ぼくたちが考えただけでも約六十の職業の人が修学旅行に関わっていました。  
また、こんなこともありました。一日目のペニランドでのことです。アトラクションに乗っていると、場内アナウンスで「旭田小学校佐藤椋さん」とぼくの名前が呼ばれました。なんだろうと思いついてみると、忘れ物が届けられていました。もし誰も届けてくれなかったら、もしそのままになっていたら・・・。修学旅行の楽しさは半減していたと思います。  
たった二日間の修学旅行でさえ、これだけたくさんの人に関わっていたんだき、助けてもらっていたのです。  
このように考えると、ぼくがこれまで十二年間生きてきた中で関わっていただいた人の数は、とてつもない数になると考えられます。ぼくたちは、直接的、間接的にたくさんの人たちに支

えられて過ごしているのです。そして、これからも、さらにたくさんの人に支えられて生きていくことは間違いありません。毎日の中で、つい忘れてしまいがちですが、いつもたくさんの人に支えられていることを忘れずに過ごしていきたいと思います。そして、いつかは、これまでぼくがたくさんの人に支えられてきたように、ぼくも誰かの支えになりたいと思います。  
そのために、小学校のぼくなりにできることを一つ一つ積み重ねていきたいと思えます。それは、六年生として、下級生の手本になるような行動をすることです。直接優しくすることはもちろんですが、手本を見せることで、下級生が真似をしてくれれば、下級生のためになると考えたからです。  
ありがとうの気持ちと、その気持ちを他の誰かにも広げることが大切に過ごしていきたいと思えます。



## 言葉の力

楯原小学校 6年  
星 葵

みなさんには、人生の中で「忘れられない言葉」というのはありますか。私には、忘れられない言葉が二つあります。

一つ目は「一緒に遊ぼう」です。みなさんにとっては、そんなにたいした言葉ではないかもしれませんが、なぜそんな言葉がと思う人もいると思います。しかし、この言葉は私にとって自分を変えてくれた言葉なのです。

それは、私が一年生の時です。私は放課後の児童クラブに向かっていました。しかし、あいにくその日は、よく一緒に遊んでいた同じクラスの友達がいなくて、一人で遊ぶしかありませんでした。ひまだなと感じていたときに、「一緒に遊ぼう。」

と、声をかけられました。それは今まで話したことのない六年生のお姉さんでした。初めはびっくりしましたが、そのお姉さんは私に優しく話しかけてくれました。おんぶをして遊んでくれたこともありました。それは一人っ子

の私にとって、とてもうれしいことでした。それまで私は、六年生とはほとんど関わりを持ちませんでした。休み時間に六年生と遊ぶということもありませんでした。むしろ、少しこわいなという印象もありました。でも、あの日、お姉さんが

「一緒に遊ぼう。」

と声をかけてくれたおかげで、私は放課後クラブであまり遊ばなかった他のクラスの子とも楽しく遊ぶことができるといふようになりました。この言葉は私が新しい一歩を踏み出した忘れられない言葉です。

二つ目は、「ちゃんとやって」です。これは一つ目とは反対で、忘れられない嫌な言葉です。その言葉は体育の時に言われました。私は体育の中でも球技はあまり得意ではありません。だからと言って、手を抜いているつもりはありませんでした。自分なりに一生懸命やっていたつもりです。しかし、同じ班の人に

「ちゃんとやって。」

と、言われてしまいました。その時、胸がとて苦しくなりました。今にも泣き出したい気持ちでしたが、ぐっとこらえました。一生懸命やっていたのに、なんで分かってくれないのと強く思いました。その後、班のメンバーとは仲直りしましたが、あの言葉は今でも頭から離れません。今でも球技をやる時、失敗したらまたあの言葉を言われるのではないかと少しこわいです。

今までの経験から、私は言葉にはすごい力があるのだと思いました。六年生のお姉さんが声をかけてくれた時のように、言葉は何か一歩、前に踏み出すきっかけになってくれたり、とても温かい気持ちにしてくれたり、とてもできます。しかし、言葉は時に凶器にもなります。言葉一つで相手の心に深い傷をつけることができます。そして、その傷や言葉は忘れることはできません。

私は、よく家でインターネットを

使いますが、ネットの中では、「キモい」や「ウザい」などの言葉が平気で使われています。もし、このような言葉を直接言われたら、その人はどんな気持ちになるのでしょうか。立ち直ることのできるのでしょうか。そんなの気にはしないという人もいるかもしれませんが、みんながそうだとはいえません。自分にとって、たいした言葉ではなくても、言われた人にとってはとても悲しかったり、傷ついたりする言葉かもしれません。

私は、人を悲しませたり、傷つけたりする言葉より、相手を元気づけたり、はげましたりする言葉を使えるようになりたいです。それにはまず、自分が言っている言葉や言われてうれしい言葉を相手に言います。そして、自分が言われたら嫌だと思ふ言葉は、相手にも言わないように気をつけます。みなさんには、「忘れられない言葉」はありますか。



の遺品や遺書、実際の戦闘のビデオも映もされていました。

大和ミュージアムの隣には、「つづのくじら」といわれる潜水艦があります。海上自衛隊の史料館です。本物の潜水艦の内部に入って見学ができ、中には本物の魚雷や、掃海艇が海底の機雷を除去する活動の映像も紹介されています。

呉に来て感じたこと。それは、本当に戦うための町だということでした。実際に海に浮かんでいるのは、普通の船ではありません。戦うための船と潜水艦です。そして、見学した所も、守るためのものではなく、戦うためのものの施設でした。私がテレビなどを見て知っていた広島県ではありませんでした。

次に訪れた所は、広島市平和記念公園です。ここは、平和への祈りを込めて作られた場所です。敷地内には平和危難資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像、平和の灯など、たくさん建造物があります。

平和祈念資料館には、たくさんのもものが展示してありました。皮ふがけで全身大やけどの人の写真。爆風と熱でぼろぼろになった兵隊さんの服。中のご飯が炭になったしまったお弁当箱。人の影が焼きついた石。とけて曲がった三輪車。熱でくっついた五円玉のかたまり。見学に来ていた人は、みんな真剣な表情でした。外国人の方もたくさんいました。涙をこぼしている女性もいました。

原爆ドームは、テレビで目にするも

のとは少し違ってました。鉄骨がぐにやぐにやに曲がり、大きな石がばらばらに転がっていました。原爆ドームは「負の世界遺産」と呼ばれています。世界遺産は美しいものやめずらしいものが選ばれると思っていました。しかしこれは、二度とあつてはならないものの代表でした。

この戦争で、どっちが悪いのかは、私にはまだ判断できません。けれど、たくさんの方の大切な命が失われてしまったことは分かりました。日本人も外国人も同じです。たった一つの大切な命です。原爆が落とされて七十年以上経つのに、今も放射能に苦しんで亡くなる人がたくさんいることも知りました。

今回の旅行は、楽しいものではありませんでした。でも行って良かったと思

っています。

自分の命も、まわりのみんなの命も大切です。大切な命をたくさん犠牲にする戦争は、もう二度と起きてはいけません。世界では今も争いが起こっているけれど、そんなことは一刻も早く終わらなければいけません。

たった一つしかない地球。みんな地球人なんだから、争いのために兵器を持つのではなく、平和のために、一人一人の大切な命のために仲よく過ごしたい。

「過ちは繰り返しませぬから」

慰霊碑の言葉を、みんなが心の中に持ち続けてほしいと思います。

# 町民会議だより

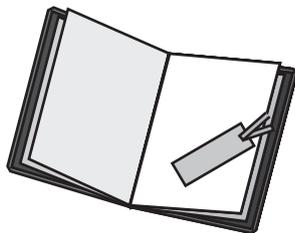
平成30年  
151号

2018/2/15  
No.151  
●編集・発行  
下郷町青少年育成町民会議  
(町教育委員会事務局内)  
〒969-5345  
福島県南会津郡下郷町大字  
塩生字大石 1000  
TEL.0241-69-1168  
FAX.0241-69-1167

## 家読の実践

「耳の聞こえないメジャーリーガーウィリアム・ホイ」を子どもと一緒に読みました。

絵本ですが、大人が読んでも気づきがある内容で子どもと会話がすすみ楽しい時間となりました。皆さんも絵本から読書をはじめませんか。



## 優良書籍のご案内



**カイとカイサのぼうけん**  
作・絵 エルサ・ベスコフ  
訳 まつむらゆうこ  
発行所 福音館書店  
対象 幼児 小学生



**耳の聞こえないメジャーリーガーウィリアム・ホイ**  
文・絵 ナンシー・チャーニジェズ・ツヤ  
訳 齊藤洋  
発行所 光村教育図書  
対象 小学生



**タンチョウのきずな**  
写真・文 久保敬親  
発行所 小学館  
対象 小学生



**大きなたまご**  
作 オリバー・バターワース  
訳 松岡亨子  
発行所 岩波書店  
対象 小学生



**テオの「ありがとう」ノート**  
著 クロディーヌ・ル・ゲイック=プリエト  
訳 坂田雪子  
発行所 P H P 研究所  
対象 小学生 中学生



**物語ること、生きること**  
著 上橋菜穂子  
構成・文 瀧晴巳  
発行所 講談社  
対象 小学生 中学生 高校生 青年

## 毎月第3日曜日は 家庭の日 です



## 家庭の日とは

家庭は、次世代を担う青少年が基本的な生活習慣や規範意識の基礎を身につけ、人格を形成する上で大きな役割を担う大切な場所です。

そこで、家族みんなが話し合う機会をできるだけ多く持つことにより、絆を深め、明るく楽しい家庭づくりを進めるため、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めています。

「家庭の日」には、家族一緒に過ごすことを心がけましょう。